

東北大学における被災状況及び災害対応状況の概要について

東 北 大 学

本学では、平成23年3月11日の東日本大震災発生直後より総長を本部長とする災害対策本部を設置、学生・教職員等の安全確保と安否確認並びにキャンパスの安全確保に全力で取り組んできた。

また、被災施設等の早期復旧に一丸となって取り組み、大学機能の回復に向けて迅速な復旧対応に努めている。

さらに、地域社会における貢献活動に取り組む一方、学位記授与式を中止、入学式、授業開始の弾力的な実施等、可能な限り柔軟な対応に努めているところ。

1. 学生・教職員の安否等について

- ・ 3月30日 学生・教職員全員の安否確認を完了
日本人学生：17,073人、留学生：1,499人、
教職員（非常勤等含）：11,590人
- ・ 農学部4年生、経済学部1年生の計2名、及び新入学予定者1名の死亡を確認
- ・ 学生負傷者14名（日本人学生13名・留学生1名）
- ・ 教職員の死亡者数0名。親族の死亡が確認された教職員5名、安否未確認の親族がいる教職員2名。
- ・ 学生の住居の被災状況を調査のうえ、寄宿舍等の措置を調整中。
住居が全壊または一部損壊：526名（5.2%）
転居等を検討している学生：331名（3.2%）
} 4月28日調査時点
従前の入学科・授業料免除等の申請手続期間延長（約2ヶ月間）
被災学生への経済的支援 入学料・授業料の免除 新たに奨学金制度を検討
年度をまたがる長期的支援が必要

2. 学事関係

- ・ 平成22年度学位記授与式中止（学位記及び総長告示を4月上旬に郵送）
- ・ 学部・大学院入学式、新入生オリエンテーション等
4月6日（水） 5月6日（金）に変更（いずれも各部局単位で実施）
- ・ 授業開始日
全学教育（学部1、2年次） 5月9日（月）
学部専門授業及び大学院授業 4月25日（月）

3. 施設関係

- ・ 本学のライフライン関係の復旧状況等
【電気・水道・ガス】危険建物を除き4月26日より全学復旧
- ・ 建物危険度：危険判定（津波被害建物含む）28棟、要注意判定48棟、
安全判定（部分改修必要な建物含む）512棟（3月16日現在）
- ・ 施設等復旧費：大学側概算 約448億円（3月24日現在）

現在、危険建物として使用出来ない建物が約4万㎡にのぼる。その内、約1万8千㎡は学内既存施設の個別使用空間を圧縮するなどに対応するが、残り2万2千㎡についてはプレハブ仮設建物での対応が必要である。現在の復興活動を加速するため、被災建物の「建て替え」、「プレハブ棟建設」等の計画通知申請等手続きに係る特段のご配慮をお願いしたい。

4. 設備関係

- ・物品等概算被害額： 約352億円（6,118件）（5月13日現在）
汎用的な設備については、部局等の垣根を越えて、可能な限り学内共同利用設備とすることで対応。
早急に被害物品の復旧整備に着手できるよう、迅速な予算措置及び執行制度の弾力化についてご配慮願いたい。

5. 救援物資及び震災寄付金受入状況

- ・救援物資：文部科学省および国立大学協会の支援を受け、全国の国立大学から新潟大学、山形大学等を拠点に救援物資を受入れ。その他企業等からも受入れ。
- ・東北大学震災寄付金の創設（3月18日）
：受入状況：1,089件(112,370千円)（6月9日現在）
被災学生等への支援策について検討中。

6. 諸外国の大学等からの支援等

- ・諸外国の大学等から本学に対する研究・教育上の支援申出（諸外国大学等における一時的な研究・履修等）に対し、研究・教育の円滑な継続上、真に必要な場合について、協力依頼を行う。

7. 本学の地域貢献等

1) 大学病院関係

- ・大学及び学会関係を通じ医薬品、医用材料等の確保に努力。被災病院からの患者受け入れ、県外への患者搬送、県内外への医師派遣および医療物資の提供等、拠点病院として中心的な役割を担っている。

2) 放射線モニタリング関係

- ・本学の原子科学安全専門委員会を中心に、宮城県、仙台市をはじめ県内各自治体、福島県等からの要請に応え、野菜、原乳、水道水、大気、土壌、海水等における放射線量を測定し、各自治体から地域住民等へモニタリング情報を提供している。

3) ボランティア関係

- ・本学学生ボランティア組織には現在1,000人を超える学生が登録。介護老人福祉施設、県庁関係部局での事務補助など活発な支援活動を行っている。また、宮城県より要請を受け4月6日より山元町へ毎日40人以上の学生等が赴き避難所等における支援活動や、気仙沼避難所等への支援物資搬送、仙台市内の避難所や仮設住宅において児童への学習支援など活発に活動を展開。

このほか、震災直後より避難所の提供、遺体検案、塩害調査、新たな津波対策の指導などを実施。

また、東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室を設置し、学生たちの地域貢献活動をサポート。

東北大学の叡智を結集し、宮城県や仙台市そして国とも連携・協力を図りながら、災害に強い新しい都市計画の在り方、原発事故対応、食・農・村の復興支援プロジェクトなど、震災復興・地域再生等に貢献していくものである。